

2024年度成人科テキスト

月刊 「ぶどうの木」

1月号



主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。(詩編23:1)

名前

目次

証し	ジェーン姉	・・・ 1
解説・マタイによる福音書②		・・・ 3
第40課 私たちにふさわしいこと		・・・ 5
ショートメッセージ：田中由記子姉	聖書日課：工藤征治兄	
第41課 人間をとる漁師		・・・ 9
ショートメッセージ：郷健人兄	聖書日課：宇佐美典子姉	
第42課 悪人にも善人にも		・・・ 13
ショートメッセージ：栗山義重兄	聖書日課：渡部和子姉	
第43課 私たちの祈り		・・・ 17
ショートメッセージ：郷秀男兄	聖書日課：小沢敬一兄	

表紙イラスト：友納聖子姉

おしらせ


- 成人科は毎週日曜日 10：15～50 地下フェロシップホールにて行っています。ぜひご出席ください。
- ショートメッセージの動画は、教会ホームページからも視聴できます。上部メニューから「教会学校」をクリック→「成人科」をクリック
- ショートメッセージと聖書日課を、メールで受け取ることができます。ご希望の方は成人科奉仕者（ショートメッセージ、聖書日課の執筆者）にお声がけください。
- 「ぶどうの木」のボックスへの配布をご希望される方も、奉仕者までお知らせください。

イエスさまがともだち

詞：美登かな

曲：美登かな

F C/E Dm F/C Bb F/A



ともだちってどんなもの？ そばにいるとげん
わたしだけがみん
このせかいのたく

Gm7 C7 F C/E Dm F/C Bb F/A



きになれるたのしいときつらいときつないだ手と手あ
なとちがうひとりぼっちひざかかえうつむいてしまふ
さんのことひとりではちいさくてであうことさえ

Gm7 C7 F C C7 F F/C Gm7 G7



たたかいねイエスさまがそのなかにいっしょにいるか
そんなときイエスさまがたちどまりいっしょにいてくれ
あんだけどイエスさまがさきにいつてわたしをまっ

C F7 Bb C7 Am Dm Gm7 C7



ら「あなたがたをともとよぶ」イエスさまのことばわ
たたる おに

F F7 Bb C7 Am Dm



かちあつて「あなたがたをともとよぶ」よ
もいだしてて こ
ぎりしめて

Gm7 C7 F



ろこ んで ある きだ そう
わが らで ずし
うが き だ し

証し

ジェーン姉

私は4年前に肝臓が悪くて倒れてしまったことがありました。そしてちょうどそのころは精神的にも具合が悪くとてもつらい時期でした。でも神さまはそのとてもつらい時に、私のために祈り、助けてくれる信仰の友を与えてくださりました。吉野さんや宮林さんや友納先生や薫さんにたくさん助けていただきました。

今、また体調はあまりよくないけれど、(実は三年前からまた大腸に問題がある)検査が面倒くさくて病院に行きたくなかったです。でもやっぱり病院に行く決心をし、詳しく検査を受けました。吉野さんが病院の付き添いをしてくれて感謝です。お菓子作りと販売の仕事が大好きだから仕事を休んで病院に行かなくちゃいけないことはすごく悲しいです。でも神さまを信じて2月にポリープを取る手術の予定が決まりました。どうかお祈りしてください。

ずっと教会に繋がっていることは本当に感謝です。

毎日、小さな悩みはあるけれど、神さまにお祈りしていると、希望と光が絶対見えます。私は信じています。

毎朝5時に起きて1時間半、デボーションをします。聖書を読みお祈りをします。祈りの内容は自分のことや身近な人のこと、世界の平和のこと・・・たくさんあります。デボーションブックを用いることもあります。今はイザヤ書を通読しながら、神さまのみ言葉から日々力をいただいています。デボーションをしないとごはんも食べたくないし、仕事にも気持ちよく行けません。

成人科での賛美・お祈り・ショートメッセージ・グループでの分かち合いは、私にとってとても大切な時間です。毎週、この時間をとても楽しみにしています。



解説・マタイによる福音書②

【マタイ福音書によるイエス・キリストの系図】

新約聖書を手にとって、最初の書であるマタイ福音書を読み進めようとするすと1章1節から17節までアブラハムからイエス様までの系図に戸惑ってしまいます。ここを丁寧に一字一句読むよりは、ななめ読みか、読み飛ばしてしまうことが実は多いのではないのでしょうか。それは何故か、聖書はみ言葉から自発的な感動を覚えて深く味わう体験をどなたもされておられると思います。しかし、ユダヤから遠く離れた異邦人の私たちに系図に表れた人たちの背景も知らず感動を覚えることもできないのであれば読み飛ばしたとしても致し方ないとも思います。

他方、ユダヤ人キリスト者にとっては、この系図こそアブラハム、イサク、ヤコブの神が約束されたダビデの子である救い主イエスを遣わしてくださったと確信できる感動の系図なのです。

アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。

アブラハムはイサクをもうけ、イサクはヤコブを、ヤコブはユダとその兄弟たちを、ユダはタマルによってペレツとゼラを、ペレツはヘツロンを、ヘツロンはアラムを、アラムはアミナダブを、アミナダブはナフシオンを、ナフシオンはサルモンを、サルモンはラハブによってボアズを、ボアズはルツによってオベドを、オベドはエッサイを、エッサイはダビデ王をもうけた。

ダビデはウリヤの妻によってソロモンをもうけ、ソロモンはレハブアムを、レハブアムはアビヤを、アビヤはアサを、アサはヨシャファトを、ヨシャファトはヨラムを、ヨラムはウジヤを、南ユダの王ウジヤはヨタムを、ヨタムはアハズを、アハズはヒゼキヤを、ヒゼキヤはマナセを、マナセはアモスを、アモスはヨシヤを、ヨシヤは、バビロンへ移住させられたころ、エコンヤとその兄弟たちをもうけた。

バビロンへ移住させられた後、エコンヤはシャルティエルをもうけ、シャルティエルはゼルバベルを、ゼルバベルはアビウドを、アビウドはエリアキムを、エリアキムはアゾルを、アゾルはサドクを、サドクはアキムを、アキムはエリウドをエリウドはエレアザルを、エレアザルはマタンを、マタンはヤコブを、ヤコブはマリアの夫ヨセフをもうけた。このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。

こうして、全部合わせると、アブラハムからダビデまで十四代、ダビデからバビロンへの移住まで十四代、バビロンへ移されてからキリストまでが十四代である。

【系図に秘められたメッセージ】

●男系の系図に表れた女性

イエスの母となったマリア以外に4人の女性の名前があります。「タマル」「ラハブ」「ルツ」「ウリヤの妻(バト・シエバ)」です。男系系図ですから書かなくてもよい女性の名前を福音書の著者であるヨハネがあえて記したのは神の御意思がある筈です。「タマル・創世記38章6～30節」、「ラハブ・ヨシュア記6章25節」、「ルツ・ルツ記」、「ウリヤの妻・サムエル記下11章」それぞれの聖書箇所を黙想してみ旨に問いかけては如何でしょうか。

●主の目に悪を働いた王

南ユダ王国の王であるヨラム、アハズ、マナセ、アモスは主の目に悪とされることを行ったと歴代誌下に記されています。これはイエスの系図には相応しくないと考えてしまう「罪人」の名前です。

●キリストの救いに繋がる人々

同じ系図に入ることは、そこに連なる人たちとキリストは連帯関係にあるということです。恥も誉れも共にあるということです。「救い主、イエス・キリスト」は、この系図に連なる人として世に生まれたのです。救うためには、救う者が救われる者の所まで来て、関係性(内在化)が築かれていることが救うことができるひとつの姿です。現代の私たちキリスト者もイエスに救われた新しい民なのです。

●男系の系図でみるヨセフとイエス

極端に言えば、マリアはイエスの母であるが、1:16からイエスはヨセフの子ではないとマタイの男系の系図からは読み取ることも可能です。それでは系図はイエスとは関係のないものになります。それを説明するためにもマタイはキリストの誕生を系図に続いて記しました。

【イエス・キリストの誕生】

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

【処女降誕に秘められたメッセージ】

福音書の冒頭から長々続く系図に続き、マリアが聖霊により身ごもられた(処女降誕)記述は少なからず驚きと躓きとなるかもしれません。しかし、ユダヤ人キリスト者は神は人知を超えた超越的な働きをされる方であることを知っていますから驚き、否定することなく、感謝して神の救いの業として受けとめるのです。

●人としてお生まれになったイエス

人は誰でも神の前に罪人です。では、イエスも罪人でしょうか。否、そうではなく罪は全くない聖なるお方としてお生まれになりました。聖霊により身ごもられたからです。イエスは神の御子でしたが罪なき正しい人として世に遣わされました。人となることで関係性を保たれて、そのうえで罪なき正しい人として、すべての罪人の責任を負われて十字架の刑罰を受けられました。人としての人生を歩む為に神の御意思はヨセフとマリアの子としてお生まれになることでした。

●神の御子、救い主・イエス

同じ罪をもつ人同士が赦し合っても、神の赦しに繋がりません。それは例えば私があなたに対して「あなたの罪は許された」と宣言したところで何の意味もないことです。イエスも人と同じように内在化しただけならば同じことです。罪を赦す権威のあるお方だけが罪を負うべき罪人を刑罰から救い出すことができるのです。それは人でもある神の御子、イエス・キリストの贖いの十字架の執り成しにより実現する救いなのです。マタイ福音書においての系図と処女降誕の記述は神の救いを知らせる一体のものなのです。

(文責・郷秀男)

第40課 私たちにふさわしいこと

聖書箇所：マタイによる福音書3章13-17節

主題聖句：しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。(15節)



13そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼（バプテスマ）を受けるためである。14ところが、ヨハネは、それを思いとどませようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼（バプテスマ）を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」15しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。16イエスは洗礼（バプテスマ）を受けると、すぐ水の中から上がった。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。17そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。



ヘロデ王の死後、エジプトから戻ってきたヨセフとマリアと幼子イエスは、夢のお告げに従って、ガリラヤ地方のナザレへ向かい、そこで暮らしました。イエスさまが30歳になられた頃から33歳で十字架にかかれるまでを、イエスさまの公生涯と言いますが、本日の学びの箇所は、その始まりの部分です。

その頃、バプテスマのヨハネは荒野で、もうすぐ救い主が来られることを宣べ伝え、救い主が来られる前に悔い改めることが必要であることを説き、人々にバプテスマを授けていました。ヨハネは、イエスさまのことを、「わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。」(3：11)と言っています。救い主が来られる前に、道を整えること、人々が心の準備をして救い主を受け入れられるようにすることがヨハネの役割でした。

それなのに、イエスさまが、ヨハネからバプテスマを受けるために、彼のところに来たのです。

イエスさまは神さまの子であり、全く罪のないお方です。そのようなお方に悔い改めのバプテスマを授けるなど、とんでもないことです。「私の方があなたからバプテスマを受けるべきなのに」と言って思いとどませようとしています。しかし、イエスさまは、「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」とお答えになります。

「正しいことをすべて行う」とは、どういうことでしょうか？全てを神さまにお委ねして、神さまのみ旨に従って歩むことだと思います。

私たち人間が、一人も滅びないで、永遠の命を得るために、神さまは、そのひとり子を人間としてこの世に生まれさせてくださいました。私たちを救う神さまの偉大な計画に沿って、イエスさまは歩いて行かれます。その第一歩がバプテスマでした。神さまの子でありながら、人間と同じように罪の中に身を置き、私たちの罪を背負って十字架にかかれたイエスさまは、神さまの御心に従うことを一番に考えておられたのです。

イエスさまがバプテスマを受けて、水から上がられると、天が開き、神の霊が鳩のように降り、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が聞こえました。この箇所は福音書によって、表現が少し違っています。マルコによる福音書では神さまの声がイエスさまに向かって語りかけられています。マタイによる福音書では、神さまが、人間に対して、「イエスはわたしの子だ」と宣言しているような表現となっています。どちらにしても、イエスさまは神さまの子であることが明らかにされ、私たちを救うための十字架への道を神さまに従って進むというイエスさまの歩みが始まるのです。

このように、イエスさまのバプテスマは、大きな意味を持つ、とても大切なことでした。私たち、バプテスト教会では、イエスさまがヨハネからバプテスマを受けられたのと同じように、全身を水の中に沈めます。バプテスマのヨハネが授けていた悔い改めのバプテスマとは違って、自分の罪のためにイエスさまが十字架にかかってくださり、三日後に復活されたことを信じて、イエス・キリストを主と仰ぎ、クリスチャンとして歩いていく…新しく生まれ変わる、「新生」のバプテスマです。

イエスさまが私たちのところに来てくださったことに感謝して、心を開いて、主のみ声に耳を傾け、私たちにふさわしいことを行う信仰をもって歩いてまいりましょう。

～分かち合い～

- 「我々にふさわしいこと」とはどのようなことか、考えてみましょう。
- 自分がバプテスマを受けた時のことやバプテスマ式を見た時のことを思い出して、分かち合ってみましょう。

● 今週の聖書日課 ●

1月6日(月) ローマの信徒への手紙9章6-8節

6ところで、神の言葉は決して効力を失ったわけではありません。イスラエルから出た者が皆、イスラエル人ということにはならず、7また、アブラハムの子孫だからといって、皆がその子供ということにはならない。かえって、「イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる。」8すなわち、肉による子供が神の子供なのではなく、約束に従って生まれる子供が、子孫と見なされるのです。

聖書教育誌2025年1月号1/6日の[毎日のみことば]に、「イエスの洗礼は、肉による生まれでなく、神の約束に基づく生まれ----」とあります。この記述のイエスさまのような神の約束ではない我々クリスチャンは、神と個人の契約であるバプテスマを受けました。この契約を守らなければなりません。

1月7日(火) 出エジプト記15章19節

ファラオの馬が、戦車、騎兵もろとも海に入ったとき、主は海の水を彼らの上に返された。しかし、イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んだ。

1882年の英国陸軍のある少将の記録に、ナイル川が地中海に流れ込むデルタ地帯の瀉で、東方からの強い風により、一時的に海水が消えた現象があったとの報告がある。最近、同地域の模型でコンピューター-シミュレーションをしたところ、強い風で瀉の海底が4時間弱現れたという報告があります。

1月8日(水) マタイによる福音書3章17節

そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

「これはわたしの愛する、わたしの心に適う者」は、まさにイエス-キリストは神の子である事の天の声です。

1月9日(木) マタイによる福音書12章15-16節

15イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。大勢の群衆が従った。イエスは皆の病気をいやして、16御自分のことを言いふらさないようにと戒められた。

長い人生には、幾度か困難や危険に出会う事があります。それは辛く、苦しい時です。聖書を学ぶ事で、対応策や又、退くスペース(隙間)を教えてください。

1月10日(金) イザヤ書8章23節-9章1節

今、苦悩の中にある人々には逃れるすべがない。

先に

ゼブルンの地、ナフタリの地は辱めを受けたが

後には、海沿いの道、ヨルダン川のかなた

異邦人のガリラヤは、栄光を受ける。

闇の中を歩む民は、大いなる光を見

死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。

ヒゼキヤ(BC725~BC697)はユダ南王国第13代王です。BC701年にアッシリア軍は南王国の首都エルサレムを包囲しましたが、何故か征服せずに撤退しました。しかしユダ南王国の独立性はあるが、アッシリアの従属国になりました。BC721年には、イスラエル北王国はアッシリア軍によって滅びます。

1月11日(土) 列王記上19章19-21節

19エリヤはそこをたち、十二軛の牛を前に行かせて畑を耕しているシャファトの子エリシャに出会った。エリシャは、その十二番目の牛と共にいた。エリヤはそのそばを通り過ぎるとき、自分の外套を彼に投げかけた。20エリシャは牛を捨てて、エリヤの後を追い、「わたしの父、わたしの母に別れの接吻をさせてください。それからあなたに従います」と言った。エリヤは答えた。「行って来なさい。わたしがあなたに何をしたというのか」と。

21エリシャはエリヤを残して帰ると、一軛の牛を取って屠り、牛の装具を燃やしてその肉を煮、人々に振る舞って食べさせた。それから彼は立ってエリヤに従い、彼に仕えた。

エリヤから、預言者の象徴である毛皮の外套を投げかけられたエリシャは、これ迄の生活に別れを告げ、古い軛から開放された。クリスチャンはバプテスマを受け、新しい価値観を身に付けますが、実社会との繋がりは続きます。



第41課 人間をとる漁師

聖書箇所：マタイによる福音書4章12-22節

主題聖句：二人はすぐに網を捨てて従った。(20節)

12イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。13そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。14それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

15「ゼブルンの地とナフタリの地、
湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、
異邦人のガリラヤ、

16暗闇に住む民は大きな光を見、
死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」

17そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

18イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。19イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。20二人はすぐに網を捨てて従った。21そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。22この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。

ヨハネからバプテスマを受けたイエスさまは、いわゆる「荒野の誘惑」(マタイ4:1-11)を経て、いよいよ宣教の歩みを本格的に始められました。救い主のために道を整える役割を授けられていたヨハネが投獄されたことにより、ついにイエスさまの出番が来た、と見ることもできるでしょう。

12節に書かれている通り、イエスさまは身の安全を図る意味もあってガリラヤ地方へと退かれました。イスラエルの地図を大きく分けると北部がガリラヤ、中部がサマリア、南部がユダヤとなります。イエスさまが長く過ごされたナザレはガリラヤに属し、エルサレムはユダヤに属します。イエスさまの公生涯(宣教をされていた約3年間)の最後には、身の危険を承知の上でエルサレムへと向かわれることとなりますが、それまでの宣教の多くはガリラヤにおいて成されました。この地域の人々は民族的に差別されていたという説もあり、クリスマスの知らせがまず羊飼いに届けられたように、弱い者、虐げられた者にこそ真っ先に福音が告げ知らされる、主の愛が感じられます。

15節で引用されているイザヤの預言も、正にこのことを表しています。

異邦人のガリラヤ、/暗闇に住む民は大きな光を見、/死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。

もちろん、イエスさまが告げ知らされた福音、そしてそこから放たれる光は決してガリラヤの人々だけを照らしたものではありません。時間も距離も遠く離れた私たちの心にも、光は届けています。私たちを間違った方へと誘う、偽物の光にも溢れた世の中において、真の光だけを見つめ、従っていく者でありたいと願います。

イエスさまは、まず「悔い改めよ。天の国は近付いた。」という言葉をもって、人々に宣教をされました。「近づいた」という言葉には、「これから近づく」のではなく「既に近づいている」というニュアンスが感じられます。「天の国」という言葉からは、「死後の世界」という意味での「天国」を想起しかねないですが、ここでは「地上の人すべてが神さまを信じる世界」を指しています。「神の国」や「御国（みくに）」といった言葉で表現されることもあります。イエスさまの導きによって、間違いなくこの世界は天の国へと近づいたのです。「悔い改めよ」という言葉には大変な重みを感じられるのですが、「わたしに従い、共に天の国を建てあげる一員になりましょう」というイエスさまからの温かいお誘いでもあるのです。

この「お誘い」に、一も二も無く従ったのが、四人の漁師たちでした。ルカ福音書であれば、少なくともシモン（ペトロ）に関しては不漁の日にイエスさまに再度網を投げるよう言われて・・・という具体的なエピソードが書かれているものの、マタイ書やマルコ書にはそうした記述がありません。なぜ彼らが選ばれ、なぜ彼らに従ったのかは全く明確ではなく、私たちがつい聖書に求めがちな「納得」や「共感」からは遠い箇所となっています。

「なぜ」の部分が無理やりに想像することは避けたいと思いますが、漁師たちの決断が容易でない点には思いを馳せたいと思います。彼らは漁師として生計を立てており、また少なくともヤコブらの兄弟には父親という共に暮らす家族がいました。それら全てを捨ててイエスさまに従うことは、簡単ではありません。昨年まで学んでいたエレミヤ書でも、神さまの召命を受けたエレミヤが言葉を尽くしてそれを断ろうとする姿が描かれていましたが、そちらの方がむしろ共感しやすいとすら思えます。

しかし、様々な言葉を排して、ただ付き従った弟子たちの姿が聖書に書かれているということは、それが神さまからの示しだとも思うのです。エレミヤのように避けようとした人もいるけれど、この弟子たちのように真っ直ぐ付き従いましょう、という神さまからのメッセージがこの箇所には込められているのではないのでしょうか。

先ほど「天の国は近付いた」という言葉について触れましたが、残念ながら現代においても地上のすべての人が神さまを信じる世界とはなっておらず、天の国の完成は私たちに託されています。「人間をとる漁師」になることは、私たちの使命でもあるのです。それぞれに与えられる召命に真っ直ぐに従いながら、共に天の国を建てあげてまいりましょう。

～分かち合い～

- 漁師たちはすぐに網を捨てて、イエスさまに従いました。私たちがこれからもイエスさまに従っていくために、「捨てるべき網」があるとしたら、何でしょうか。
- 天の国を建てあげるために、皆さんがこれまでしてきたこと、これからしたいことについて分かち合いましょう。

今週の聖書日課

1月13日(月) マタイによる福音書15章21-28節

21イエスはそこをたち、ティルスとシドンの地方に行かれた。 22すると、この地に生まれたカナンの女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています」と叫んだ。 23しかし、イエスは何もお答えにならなかった。そこで、弟子たちが近寄って来て願った。「この女を追い払ってください。叫びながらついて来ますので。」 24イエスは、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」とお答えになった。 25しかし、女は来て、イエスの前にひれ伏し、「主よ、どうかお助けください」と言った。 26イエスが、「子供たちのパンを取って小犬にやってはいけない」とお答えになると、 27女は言った。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」 28そこで、イエスはお答えになった。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」 そのとき、娘の病気はいやされた。

異邦人の女がイエスを主(メシア)と呼び、娘を助けてくれるよう必死に求めています。この女性のように主イエスには積極的に求めて良いのです。遠慮は無用です。求めないともったいないのです。なぜなら諦めずに求め続けると、主は人が抱えている苦しみ、痛みを受け止めてくださり祝福へと変えてくださるからです。

1月14日(火) 詩編23編1-6節

1【賛歌。ダビデの詩。】

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

2主はわたしを青草の原に休ませ

憩いの水のほとりに伴い

3魂を生き返らせてくださる。

主は御名にふさわしく

わたしを正しい道に導かれる。

4死の陰の谷を行くときも

わたしは災いを恐れない。

あなたがわたしと共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖

それがわたしをカづける。

5わたしを苦しめる者を前にしても

あなたはわたしに食卓を整えてくださる。

わたしの頭に香油を注ぎ

わたしの杯を溢れさせてくださる。

6命のある限り

恵みと慈しみはいつもわたしを追う。

主の家にわたしは帰り

生涯、そこにとどまるであろう。

私たちの羊飼いであるイエスさまが憩いの水のほとりへと私たちを導いています。神さまは私たちを聖霊で満たし、私たちの人生が神さまへの賛美で満たされるよう願っておられます。私たちから祝福が溢れだし人々にも祝福が広がって行くようになるように...

1月15日(水) マタイによる福音書5章13-16節

13「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。14あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。15また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。16そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

イエスさま、あなたが私たちを地の塩、世の光としてくださいましたから、そのように生きていくように努めます。しかし私たちは弱く欠けだらけですから、あなたのみことばにより頼みます。どうか私たちを助けてください。そして用いてください。

1月16日(木) マタイによる福音書5章38-39節

8「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。39しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。

右の頬を打たれたら、左の頬をも向けよと教えています。打たれても毅然と立つ勇気がなければできません。その勇気、どこからもらいますか？

1月17日(金) マタイによる福音書5章40節

あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。

法的な暴力を受け、もし相手が自分の下着まで取るような訴えをしたならば、下着だけでなく上着も与えてしまいなさいと教えています。これは不正や不義を我満せよということではありません。報復や復讐の思いから解放され、すべての裁きは主に委ねよ、と教えているのです。

1月18日(土) マタイによる福音書5章41-42節

41だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。42求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。」

私の自宅マンションの前任の管理人は、マンションの前を毎朝、ほうきで掃き掃除をしていました。自分の管理する範囲だけではなく、隣家の前や向いの道路の方までです。落ち葉の季節には夕方もう一度掃いていることもありました。一ミリオン行くことは自分がすべき働きですが、その倍の働きを進んで行いなさいとイエスさまは教えておられます。自分の身の回りには、そのような働きに助けられていることが、意外とたくさんあるのかもしれないね。

第42課 悪人にも善人にも

聖書箇所：マタイによる福音書5章43－48節（参照38－42節）

主題聖句：しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。（44節）

43「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。44しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。45あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。46自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるのか。徴税人でも、同じことをしているではないか。47自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるのか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。48だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

この箇所は「山上の説教」と呼ばれるイエスさまの教えの中の一つです。

「山上の説教」では、いわゆる「この世の道德や道理」と「イエスさまが来られてからの新しい世界」との違いが語られています。

「敵を愛する」、単純にそれは難しいと感じる言葉です。私がサッカーに夢中になっていた頃の「敵」とは、対戦相手でした。その頃はチームの仲間と頑張って勝つのが楽しくて、相手チームのことは「やっつける相手」にしか見えず、それを愛する？どういうこと？となっていました。その後は上杉謙信の「敵に塩を送る」的なことかな？でも尊敬に値する敵でないと…などと考えていました。「自分を迫害する者のために祈りなさい」に関してはキング牧師やガンジーの様な無抵抗主義者的なものが頭に思い浮かび、「自分には無理かな」と感じていました。

私が「この考え方なら出来そうかも」と思い至った解釈があります。同じ信仰を持っている方は「神の家族」、今はまだ信仰を持ていなくても、神さまのご計画は最終的には全ての人を天の国へ導いて下さることなので、いつかは「神の家族」になるのだと考えてみると、その方の為に「とりなしの祈り」をすることは出来そうです。「とりなしの祈り」とは、他者のため、とりわけ、苦しみ、傷ついている人々のためにささげる祈りです。

また、「愛する」という部分は家族をイメージされると伝わるかと思うのですが、「家族の中に好意を持ってない人がいたとしても、家族として大事にしている」という感覚で愛することは出来るかと思うのです。その者を敵とみなした経緯にもよるかもしれないのですが、その方も神さまに愛されている者の1人であると思えれば何とか。それでも祈れない思いが込み上げてしまうようでしたら、その思いを自分の心から消しさって下さるようにお祈りすることも出来ると思います。これを自分が実践できているとは言い難いのですが…。

最後に48節の「だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」という言葉は中々に実行困難な教えになっています。勿論、人が自分の努力のみで「完全な者」になることは出来ません。私たちは神さまに祈り、日々新たにさせて頂き、「完全な者」に少しでも近づけるよう努めていく。そうすれば神さまは私たちに足りない所を補完して下さり、「あなたがたの天の父の子」に相応しい者へと成らせて下さるのではないのでしょうか。また、この教えはルカによる福音書にも記されています。ルカ書6:36の方では「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」となっています。こちらも合わせて努めていきたいですね。

～分かち合い～

- 「（自分が）好きになれない人、敵対している人」を覚え、神さまに「とりなしの祈り」をされたことはありますか。

今週の聖書日課

1月20日(月) ペトロの手紙一 1章13-16節

13だから、いつでも心を引き締め、身を慎んで、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。14無知であったころの欲望に引きずられることなく、従順な子となり、15召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も生活のすべての面で聖なる者となりなさい。16「あなたがたは聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである」と書いてあるからです。

あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。(1:5)他にも一章には生き生きとした、希望のみ言葉が連なりワクワクしますが、それだからこそ今は試練があっても主を見上げて主のお導きに、全き信頼を持って歩むようにとの励ましとお勧めがあります。

1月21日(火) イザヤ書53章4-5節

4彼が担ったのはわたしたちの病
彼が負ったのはわたしたちの痛みであつたのに
わたしたちは思っていた
神の手にかかり、打たれたから
彼は苦しんでいるのだ、と。
5彼が刺し貫かれたのは
わたしたちの背きのためであり

彼が打ち砕かれたのは
わたしたちの咎のためであった。
彼の受けた懲らしめによって
わたしたちに平和が与えられ
彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。

「イエスさまは、私たちの病と痛みを負ってくださり、私たちの背きのため刺し貫かれ、私たちの咎のために打ち砕かれました。」そのことを知らずにいた時は、彼自身の咎のためだと思っていました。「イエスさまが私たちの代わりに懲らしめられたので私たちは平和をいただき、私たちの代わりに傷を受けてくださったので私たちは赦されたこと」を知った今は、感謝を持って未だ知らない方々にこの事実をお伝えして参りたいです。

1月22日(水) テサロニケの信徒への手紙一 5章2-3節

どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。

このみ言葉の前には「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(16、17、18節)など具体的になすべきこと、注意すべきことが書かれています。自分の力では到底出来そうにありませんが「あなたがたをお招きになったかたは、真実で、必ずそのとおりにしてくださいます。」(24節)と約束のみ言葉がありますので、希望を持って出来ることから一つずつ挑戦して参りたいです。

1月23日(木) ローマの信徒への手紙8章14-15節

14神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。15あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。

私たちは罪から解放されて神の子とする霊を受けたので、「アッバ、父よ」と神さまのことを呼び出すことができます。アッバはイエスさまの時代にアラム語で「お父さん」という意味だそうです。より親しい呼び方でこの尊いお方を呼び求めることが出来、何でもお話しご相談出来る何というめぐみ・幸いでしょう。

1月24日(金) マタイによる福音書6章10節

御国が来ますように。
御心が行われますように、
天におけるように地の上にも。

昔主の祈りの意味をじっくりと説教していただいてから、一つ一つ意味を考えながら心を乗せないとお祈りできなくなりました。この世での戦争や紛争、貧困などあまりにも厳しい現実を見ますと辛くなることが多いですが、このお祈りで御国のこと、御心のことを祈り思う時に心に温かな希望の光が湧いてきます。

1月25日(土) ヨハネによる福音書1章51節

更に言われた。「はっきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」

神さまの使いが昇り降りするヤコブの梯子(創28:12)が思い浮かびました。又再臨の時をも思いましたが、今も神さまは聖霊さまとして昇り降り自由で、私たち一人一人の心にいつも共に居てくださることに有り難く感謝です。又三位一体の神さまが私たちのために執りなしてお祈りくださっておられることもより有り難く感謝です。



第43課 私たちの祈り

聖書箇所：マタイによる福音書6章5－15節

主題聖句：あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。

(8節)

5「祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。6だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。7また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多ければ、聞き入れられると思いついでいる。8彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。9だから、こう祈りなさい。

『天におられるわたしたちの父よ、
御名が崇められますように。

10御国が来ますように。

御心が行われますように、

天におけるように地の上にも。

11わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

12わたしたちの負い目を赦してください、

わたしたちも自分に負い目のある人を
赦しましたように。

13わたしたちを誘惑に遭わせず、
悪い者から救ってください。』

14もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。15しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。』

今週の聖書教育誌の週題は「私たちの祈り」です。

今回の聖書箇所を含んで5章から7章はイエスさまが「**山上の説教**」として弟子たちに語られたものです。数々の教えを語られましたが「**祈り**」について語られた今回の聖書箇所の前後には「**偽善者**」をキーワードとして当時のユダヤの人たちの信仰生活で大切にしていた三つの行為が記されています。当時のユダヤの人たちは信仰的生活と社会的な生活は完全に一致しており神の与えられた律法と社会的な規範はひとつのものと考えられていました。そういう意味で「**施すこと**」「**祈ること**」「**断食すること**」も社会の規範を守りつつ生きることで神の教えも守るという意味をもったのです。

このような行いに表れる信仰。貧しく困窮している人たちに施しをすること。一生懸命になって祈りをする。そして断食して誓願すること。これらはとても大切なことで、そうした生活を積み重ねて神の民として成長することを神は願っておられるのです。願っておられるからこそ私たちの側にある弱さが生活のなかに入ってくることを当時のユダヤの人たちにも、また現代の私たちにもイエスさまは問われたのです。

「**偽善者**」と言われるすと、あまり耳障りのよい言葉ではありません。善人らしく見せかけることをする人やその行為を表す言葉です。また、ギリシア語では役者の意味があるそうです。人に見られるというところで偽善が始まると言います。人によく見せたい、よく見られたいと人にへつらい、人の心に気を遣うことは同時に自分自身をも偽ることにとなり、やがては心身共に疲れ果ててしまうものです。

ローマ12:12 希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

私たちは祈りの習慣を身に着けたいと願います。祈りは神との交わりであり、なくてはならないものであることを知っています。けれども、ときに祈りを忘れてたり、祈りが義務的なものとなり、祈りの力、活力が失われてはいないでしょうか。これは私自身にしばしばあることで自戒を込めて告白しなければなりません。

イエスさまが今回の聖書箇所(6:5)で問われているのは、祈れない人に対してではなく祈る人(主にファリサイ人)に対してです。祈るときには神の前に「正直」であることだと教えられています。彼らがしているような偽善的な祈りを避けなさいと言われていたのです。それは、神に対しての祈りではなく、見ている周りの人に聞こえる祈りをしている。それを周りの人たちが聞いて満足する。自分も同様に満足する。そのような祈りをイエスさまは偽善だと言われているのです。神の答えを待たず、神にお会いする前に彼らの祈りは人に向けて満たされているのではないかと問われているのです。

6:5 はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。

そのような祈りのなかに本当の真実の信仰があるのだろうかといエスさまは問いかけておられるのです。報いを受けているということは、本当には神を信じていないと同じことだと言われるのです。

6:6 だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。

私たちは祈れない理由として、時間がない、祈る場所がないと言い訳することがないでしょうか。私たちの常盤台教会では2020年に始まったコロナ禍で教会に集まれない時に「主の前に静まる・片岡伸光著」を用いて静思の時を皆でそれぞれの場所で個別に守りました。「皆さんの生活の場では、どこにその時を入れて、神と二人きりになることができるでしょうか。」と冒頭に記されていたことを思い起こしました。私はその時期には時間も場所も見つけることが出来ましたが、その後は片岡先生の問いかけを心にとめながら折々の祈りの時をもたせていただいています。「祈りの精神」を著わしたフォーサイスは祈れないのは、祈ろうとしないからだと言っています。つまり、私たちが祈りのなかに自らの意思をもって踏み込んでいく時に、初めて祈りの道が開かれると言っているのです。

6:7 また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多ければ、聞き入れられると思込んでいる。

ここでの異邦人とは信仰を持たない人を表しているようです。私たちは確かにどのように祈るか言葉が紡ぎだせないで戸惑い、ただ言葉を重ねることがあります。祈りは神との会話であるとも言われます。信頼する者同士であれば飾ることなくなんでも気楽に話せるものです。親しみを込めて自分の言葉で神に素直に申しあげる祈りでよいのです。なぜなら、「6:8 **あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。**」そうです。だから、神は「私たちの祈り」の道をさらに恵み深く広げてくださるのです。主なる神はさまざま方法で語りかけてくださいますが私たちが神に語る方法はただ一つ、祈りだけなのです。

それでも、どのように祈るべきかを悩む私たちにイエスさまは「6:9 **だから、こう祈りなさい。**」と「**主の祈り**」を与えてくださいました。

～分かち合い～

- あなたは心の目を神に向けようとするときに、どのようにしていますか。

● 今週の聖書日課 ●

1月27日（月） マタイによる福音書6章11節

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

中学校の廊下の壁に貼ってありました。「その食事には、たくさんの命があります。(牛、豚、鳥、魚、貝...等) ありがとうございます。感謝していただきますよう。給食委員会」

1月28日（火） マタイによる福音書6章12節

わたしたちの負い目を赦してください、
わたしたちも自分に負い目のある人を
赦しましたように。

日本には気づかいの言葉があります。「お互い様です」私もあなたも罪をおかします。ゆるし合いましょう。

1月29日（水） エゼキエル書34章23-27節

23わたしは彼らのために一人の牧者を起こし、彼らを牧させる。それは、わが僕ダビデである。彼は彼らを養い、その牧者となる。 24また、主であるわたしが彼らの神となり、わが僕ダビデが彼らの真ん中で君主となる。主であるわたしがこれを語る。 25わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。悪い獣をこの土地から断ち、彼らが荒れ野においても安んじて住み、森の中でも眠れるようにする。 26わたしは、彼らとわたしの丘の周囲に祝福を与え、季節に従って雨を降らせる。それは祝福の雨となる。 27野の木は実を結び、地は産物を生じ、彼らは自分の土地に安んじていることができる。わたしが彼らの軛の棒を折り、彼らを奴隷にした者の手から救い出すとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。

主はわたしたちのために一人の牧者(イエスさま)を起こしてくださいました。主は地球の生き物のために空気をめぐらし、太陽の明るい光を照らし、恵みの雨を降らせてくださいます。主は造られた動物、植物が日々過ごし、成長するのを楽しみに見守ってくださいています。わたしもその中にいるのですね。主よ、感謝致します。

1月30日(木) マタイによる福音書8章1-3節

1 イエスが山を下りられると、大勢の群衆が従った。2すると、一人の重い皮膚病を患っている人がイエスに近寄り、ひれ伏して、「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。3イエスが手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち、重い皮膚病は清くなった。

ひれ伏した重い皮膚病の人を見て、イエスさまはその人の今までの苦しみ、悲しみが痛いほどにわかりました。「助けたい」と思いました。その人に触れて「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は清くなりました。イエスさま、ありがとうございます。

1月31日(金) 詩編24編1-2節

1【ダビデの詩。賛歌。】

地とそこに満ちるもの

世界とそこに住むものは、主のもの。

2主は、大海の上に地の基を置き

潮の流れの上に世界を築かれた。

宇宙から見た地球という星は本当にすばらしいです。この星がいつまでも美しい星でありますように。この星に住むすべての生き物が平和に過ごせますように。おろかな人類(わたしたち)が、この地球を大切に守っていきますように。主よ、どうぞ導いてください。

2月1日(土) イザヤ書55章10-11節

10雨も雪も、ひとたび天から降れば

むなしく天に戻ることはない。

それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ

種蒔く人には種を与え

食べる人には糧を与える。

11そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も

むなしくは、わたしのもとに戻らない。

それはわたしの望むことを成し遂げ

わたしが与えた使命を必ず果たす。

雨も雪も天から降れば、それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせる。イエスさまのみ言葉も人の心に潤いを与えます。お互いに愛し合い、平和の輪がひろがっていきます。イエスさまのみ言葉が多くの人に伝わり、苦しむ人びと、悲しむ人びとが幸せになりますように。



2025.1 成人科